

防水形複層塗材 R E

建築用塗膜防水材外壁用アクリルゴム系
2成分型



透湿弾性タイル・R E

ホルムアルデヒド放散等級

F☆☆☆☆

透湿弾性タイル・R Eベース NSK - 0306318

透湿弾性タイル・R E模様 NSK - 0306319

J I S A 6 9 0 9

防水形複層塗材 R E

(透湿弾性タイル・R Eベースに適用)

※最新の JIS 対応組み合わせ詳細につきましては、
弊社ホームページまたは、各支店、営業所でご確認ください。

J I S A 6 0 2 1

建築用塗膜防水材外壁用

アクリルゴム系 2 成分形

(透湿弾性タイル・R Eベースに適用)

「透湿弾性タイル・R E」は、透湿性能を付与した 2 液形防水形複層塗材です。
J I S A 6 9 0 9 防水形複層塗材 R E、J I S A 6 0 2 1 建築用塗膜防水材を
取得しています。

特 長

01 高弾性

高弾性により、低温時でも十分な伸び性能を発揮します。

02 優れた透湿性

透湿性能に優れており、膨れ・剥離を抑制します。

03 2液形

主材と硬化剤の反応により強靱な塗膜を形成します。

04 優れた性能

中性化抑制や塩害・凍害防止の効果が優れています。

用 途

防水形反応硬化形成樹脂エマルジョン系複層仕上塗材(防水形複層塗材 R E)による
内外装の吹付けによる仕上げ工事に適用する。

適用下地

コンクリート・セメントモルタルとし、その他の下地に適用する場合は特記による。

※下地材により、下地調整処理が必要になります。

●公共建築工事標準仕様 (平成 28 年度版)

凹凸状・凸部処理状模様

工 程	材 料・調 合	施工用具・条件	塗回数	間隔時間(hr)	所要量
素地調整	ゴミ、未硬化セメント粉末、粉塵、油脂分などの付着物をワイヤーブラシ、かわすき、サンドペーパー、ウエスなどで除去し、乾燥した清潔な面とします。				
下塗り	キクスイ浸透性プライマー E 主 材：15 kg 無希釈	はけ・ウールローラー エアレススプレー 等	1	3以上	0.1以上
増塗り	透湿弾性タイル・R Eベース 主 材：18 kg 硬化剤：0.15 kg 清 水：0.3~0.8 L	はけ 等	1	3以上	0.9以上
主材塗り	基層塗り 透湿弾性タイル・R Eベース 主 材：18 kg 硬化剤：0.15 kg 清 水：0.3~1.0 L	リシガン 口径：5~6 mm 吹圧：0.5~0.6 MPa	2	16以上 工程内3以上	1.7以上
	模様塗り 透湿弾性タイル・R E模様 主 材：18 kg 硬化剤：0.15 kg 清 水：0~0.4 L	タイルガン 口径：6~8 mm 吹圧：0.2~0.3 MPa	1	18以上 凸部処理1以内	0.9以上
凸部処理	プラスチックローラーに塗料用シンナーを付けて均一に押さえる			18 以上	—
上塗り	透湿弾性・R E トップ 主 材：16 kg 清 水：0.8~1.6 L	エアレススプレー 等	2	工程内 2 以上	0.25以上

(注) ①上記の各数値は、全て標準のものです。施工方法、施工条件により各々多少の幅を生じることがあります。

②凸部処理は、凸部処理状模様の場合のみ行ってください。

③上記とは別の上塗材での特記使用もごさいます。

④上記とは別にゆず肌状[ローラー]模様仕様もごさいます。

⑤適合する上塗材(J I S 対応組み合わせ)につきましては、各支店、または、営業所にご確認ください。

⑥増塗は、出隅、入隅、目地部、開口まわり等にははけ又はローラーにより、端部に段差のないように塗り付けてください。



菊水化学工業株式会社

本社 名古屋市中区錦二丁目19番25号 日本生命広小路ビル

<http://www.kikusui-chem.co.jp/>



透湿弾性タイル・R E

J I S A 6 9 0 9 組 合 せ 一 覧

主材	下塗材	上塗材
透湿弾性タイル・R E ベース	キクスイ浸透性プライマー E 透湿弾性タイル専用プライマー キクスイ S P パワーシーラー キクスイ浸透性プライマー S P	透湿弾性・R E トップ 透湿弾性ウレタントップ 透湿弾性シリコントップ

荷 姿

<基層材>	透湿弾性タイル・R E ベース	主材	NET 18kg/缶入	硬化剤	NET 0.15kg/缶入
<模様材>	透湿弾性タイル・R E 模様	主材	NET 18kg/缶入	硬化剤	NET 0.15kg/缶入

注 意 事 項 (水系可とう形仕上塗材、防水形仕上塗材)

【施工上の注意事項】

- 下地がコンクリート、モルタルの場合は、下地の乾燥を十分行ない、含水率10%以下、pH10以下で施工してください。
- かびや藻が発生している場合は、塩素系漂白殺菌剤「K5クリーナー」などで殺菌洗浄を行ってください。
- ヤニ、シミが著しい場合は水拭き後、下塗りとして水系ヤニ、シミ止め白色下塗材「シミナイト」を使用してヤニ、シミ止めを行った後上塗りを行ってください。
- コンクリート下地の旧塗膜の劣化が著しい場合や吸込みの著しい場合は、劣化塗膜を除去した後に、「キクスイ浸透性プライマーE」や、「キクスイSPパワーシーラー」を使用してください。
- 押出成形セメント板、GRC板、ケイ酸カルシウム板などには、下塗りとして「キクスイSPパワーシーラー」や、「キクスイプライマーEPW」を使用してください。
- ALCやコンクリートなどで単六、段差などがある場合は、セメント系下地調整塗材「BR#15」等で処理してください。
- 合成皮革、ゴムパッキン、軟化塩化ビニル製品などは、塗膜との接触を避けてください。可塑剤のブリードによる粘着が起きる場合があります。
- 蓄熱しやすい建材（軽量モルタル、ALC、窯業系サイディング、発泡ウレタン使用建材など）に塗装する場合は、蓄熱や水の影響、下地の状態、塗装時の環境など、いくつかの条件が重なることで建材の変形、塗膜の膨れ、剥離が生じることがあります。ご採用に当たっては最寄りの営業所にご相談ください。
- 大きな動きが予想される部位への塗装は、塗膜がひび割れまたは剥離する可能性があります。
- 塗膜の乾燥過程で水分の影響を受けた場合（高湿度、結露、降雨等）塗膜表面が白化する場合があります。施工場所の気温が5℃以下、湿度85%以上又は結露の発生が考えられるなど、水分の影響を受ける可能性がある場合は、施工を行わないでください。また、低温又は高湿度時は、乾燥が遅くなりますので施工を行わないでください。
- 外部の施工で降雨、降雪のおそれ、または強風のおそれがある場合は施工を行わないでください。
- 絶えず結露が発生するよう部位、場所への塗装はしないでください。
- 直射日光下で施工する場合は、適切な養生をし、下地表面の急激な温度上昇を防止してください。
- 施工時は換気を十分に行ってください。○施工時は飛散防止として養生は十分に行ってください。
- 施工面とその周辺（車や付帯設備を含む）や床などに汚染や損傷を与えないように注意し、必要に応じて、あらかじめ施工箇所周辺に適切な養生を行ってください。
- 乾燥途中で降雨等が予想される場合は、シート養生を行うなどして、塗膜表面に水分が当たらないようにしてください。
- 塗料は均一にミキサーで攪拌してから使用してください。
- 二液反応硬化形の材料の場合は、主材と硬化剤を指定の比率で混合し、ミキサーで混ぜ合わせて使用してください。特に小分けで使用する場合、計量器を用いて行ってください。混ぜ合わせ後の材料は、可保時間内に使い切ってください。また、可保時間は温度、希釈などの条件により変わりますので、注意してください。
- 材料の希釈量は所定の量により、所定の所要量を守り事前の試験塗りなどで決定してください。希釈の過多、不足はタレや隠れ不足、仕上がりムラの原因になります。
- 各種施工仕様に記載の所要量及び間隔時間を守って施工し、適正な塗付量を確保してください。
- 色、模様等の決定に当たっては事前に見本板で確認してください。
- 被塗物の形状、膜厚、塗り回数、希釈量などの違いにより実際のつやと異なって見える場合があります。また、刷毛・ローラー塗装時の塗継ぎ箇所でも起こる場合があります。特に艶調整品は、被塗物の形状、素地の状態、膜厚、色相、塗り重ね乾燥時間等により、実際の艶と若干違って見える場合がありますので、試し塗りの上、本施工してください。
- 既存塗膜の剥離箇所は、既存塗膜の塗装仕様でパターン合わせを行ってください。
- ローラー塗りの場合は、ローラー目は同一方向に揃えるように仕上げてください。ローラー目により、色相や仕上がりが異なって見えることがあります。
- 備などて補修塗りが必要な場合がありますので、補修用に使用塗料の控えを取っておき、同一塗料、同ロット、同一方法で補修してください。また、濃色塗料は、被塗物の形状、膜厚、色相、塗り重ね乾燥時間等により、実際の色と若干違って見える場合がありますので、試し塗りの上、本施工してください。
- 他の材料と混合して使用しないでください。
- 水性塗料には動物毛の刷毛は固まり塗装に支障が出ますので繊維の刷毛を使用してください。
- 上塗りのローラー塗装において、綿毛のローラーで水系塗料を塗装し泡が発生した場合は、糸毛のローラーを使用してください。
- 使用後は刷毛やローラーなどは十分に洗浄してください。
- 溶剤形の製品を取り扱う場合には、特に火気に注意し、消防法及び労働安全衛生法等を厳守してください。
- や調整品は、はけ、ローラーでの塗装はムラが出やすくなります。スプレー塗装をお勧めします。
- や調整品は、塗料が分離しやすいので、良くミキサーで混ぜながらご使用ください。
- 刷毛塗りとローラー塗り、スプレー塗りが混在する場合、施工方法の違いで若干の色相差が生じます。希釈量を調

- 整するなどで塗装してください。
- 仕上材は、乾燥しますと弾性塗膜となりますので、養生テープはナイフカットして取り除いてください。
- 濃色や原色に近い色彩では塗膜を強く擦ると色落ちすることがあります。衣類などに触れる可能性のある部位への施工は行わないでください。施工する場合は、クレーンによる保護塗装を行ってください。
- 上塗りに黄色、赤色、青色、緑系の彩度の高い色を塗装する場合、隠れ性が不足する場合がありますのであらかじめ中塗りとして共色を塗装してください。
- 希釈した材料を後日使用すると、色相が変わる場合があります。希釈した材料は、その日のうちに使い切るようにしてください。
- 弾性系塗料は、塗膜が伸びることによりクラック追従性を有しますが、地震・台風・軟弱地盤など予想を超えた振動、従来の壁と違った特殊構造（特殊な力）などにより、本来のクラック追従性が発揮されない場合があります。
- 防藻、防カビ効果は、繁殖を抑制するものです。施工部位の形状、構造、環境条件によっては防藻、防カビ効果が十分に発揮されない場合があります。また、すでにカビ、藻が繁殖している場合は、下地処理として除去及び殺菌処理を行ってください。
- 施工部位により、傾斜壁の下端部、水切りの無い部位、窓周りで水切りが不十分な場合、雨掛りの少ない部位などは低汚染性が十分に発揮されない場合があります。
- 施工後、塗膜が乾燥するまでの間に、塗膜表面に長時間水がかかった状態になりますと、艶引け、ひび割れ、変色等が発生する場合があります。また、艶消し品や濃色品では低温時、湿度が高い状況下などでは塗膜に艶が出たり、白濁、塗膜中成分の流出が起こる場合があります。
- 各シーリング材は可塑剤の含まないノンブリードシーリング材を使用してください。また、シーリング材の上へ直接施工する場合、シーリング材の種類や材齢によって塗膜が付着しない場合があります。詳しくは最寄りの営業所にご相談ください。
- 磁器タイル洗浄用の酸が表面に付着すると変色したり、溶解することがあります。磁器タイルの洗浄用の酸が塗膜面に付着する可能性がある場合は、必ず施工面のマスキングを行ってください。
- 直射日光や屋外、0℃以下の保管はしないでください。
- 建築用仕上塗材（JIS A 6909）復層塗材および可とう形改修塗材は、下塗材・主材・上塗材を同一メーカーの指定された製品を使用しないと、JIS規格品とはなりません。

【安全衛生上の注意事項】

- 製品の取り扱いについての一般的な注意事項の詳細はSDS(安全データシート:旧MSDS)を参照してください。
- 取扱後は手洗い、うがいを十分にこなしてください。
- 適切な保護手袋、保護眼鏡、防毒・防塵マスクなどを着用してください。
- 火花を発生しない工具を使用してください。
- 屋外または換気の良い場所でのみとし、火気厳禁にしてください。
- 必要な時間以外は、環境への放出を避けてください。
- 製品の混ぜ合わせは、防塵型ミキサーにて行ってください。また、必ずアースを取ってください。
- 火災時には、炭酸ガス、泡または粉末消火器を用いてください。
- 目に入った時は直ぐに水で洗い、速やかに医師の診断を受けてください。
- 誤って飲み込んだ場合は速やかに医師の診断を受けてください。
- エポキシ樹脂系の材料は、皮膚にかぶれを引き起こす恐れがあります。皮膚に付着しないよう特に注意してください。
- 皮膚に付着した場合は、多量の水と石鹸で洗ってください。皮膚刺激または発疹が生じた場合は、医師の診断を受けてください。
- 粉じん、揮発物を吸い込んで気分が悪くなった場合は、安静にし、必要に応じて医師の診断を受けてください。
- 使用後保管する際は無希釈の状態ですっきり密栓して40℃以上の場所では保管しないでください。できるだけ早目に使用してください。
- 日光から遮断し、換気の良い場所で保管してください。
- 保管場所、取り扱う場所とその周辺には、塗装中、乾燥中共に、熱、火花、高温体のような発火源を遠ざけ火気厳禁としてください。取扱いは、法令に沿って保管を行い、特に乾燥中は蒸発の面積が広がるため、短時間に引火性の高い蒸気が発生します。注意してください。
- 合成樹脂などの電気絶縁性の床で材料の保管や取り扱いをしないでください。また、導電靴や帯電防止の服を着用してください。
- 子供の手の届かない所に保管してください。
- 塗料や塗料の付いた布などを処分する際は、法令に従い産業廃棄物として処理してください。
- 塗料、塗装器具を洗浄した汚水、塗料の付いた布などはそのまま地面や排水溝に流すと環境に悪影響を及ぼすおそれがありますので、関連法規を厳守の上、産業廃棄物として処理してください。

取扱店

菊水化学工業株式会社

本社 名古屋市千種区錦2丁目19番25号 日本生命広小路ビル
☎052-300-2222(代)

仙台支店 ☎022-706-5710

東京支店 ☎03-3981-2500

名古屋支店 ☎0568-69-5200

関西支店 ☎06-7668-5320

福岡支店 ☎092-935-4610

●ホームページアドレス <http://www.kikusui-chem.co.jp/>

